

2023年6月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕（非連結）

2022年11月10日

上場会社名 株式会社エーワン精密 上場取引所 東
 コード番号 6156 URL <http://www.a-one-seimitsu.co.jp/>
 代表者（役職名） 代表取締役社長（氏名） 林 哲也
 問合せ先責任者（役職名） 代表取締役社長（氏名） 林 哲也 (TEL) 042-363-1039
 四半期報告書提出予定日 2022年11月14日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2023年6月期第1四半期の業績（2022年7月1日～2022年9月30日）

(1) 経営成績(累計) (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年6月期第1四半期	446	△3.0	87	△26.6	83	△30.7	57	△30.8
2022年6月期第1四半期	460	36.4	119	91.0	120	90.0	83	90.2

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2023年6月期第1四半期	11.53	—
2022年6月期第1四半期	17.39	—

(2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2023年6月期第1四半期	9,005	8,241	91.5
2022年6月期	9,479	8,688	91.7

(参考) 自己資本 2023年6月期第1四半期 8,241百万円 2022年6月期 8,688百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年6月期	—	0.00	—	100.00	100.00
2023年6月期	—	—	—	—	—
2023年6月期(予想)	—	0.00	—	100.00	100.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2023年6月期の業績予想（2022年7月1日～2023年6月30日）

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	967	2.9	275	9.3	280	8.5	189	6.7	37.88
通期	1,950	4.4	444	2.6	454	2.2	306	△1.3	61.17

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数（普通株式）

- ① 期末発行済株式数（自己株式を含む）
- ② 期末自己株式数
- ③ 期中平均株式数（四半期累計）

2023年6月期1Q	6,000,000株	2022年6月期	6,000,000株
2023年6月期1Q	992,460株	2022年6月期	988,460株
2023年6月期1Q	5,007,975株	2022年6月期1Q	4,798,451株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期貸借対照表	4
(2) 四半期損益計算書	6
(3) 四半期財務諸表に関する注記事項	7
(継続企業の前提に関する注記)	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	7
(会計方針の変更)	7
(四半期損益計算書関係)	7
(セグメント情報等)	7
(収益認識関係)	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第1四半期累計期間におけるわが国経済は、世界的にインフレ率が上昇し、インフレ抑制のために各国が金融引き締めで動いたことで景況感が頭打ちとなり、その影響を受けました。

国内製造業では、全体的に受注がやや減少する傾向が出てきております。半導体では、一部でコロナによる在宅勤務やリモートワークが一巡してパソコンやスマートフォン需要が落ち着き、在庫調整の動きもありましたが、今後進展が予想されるIoTやAI、DXなど様々な場面で半導体需要は増大すると思われ、特に半導体製造装置は受注残高が多くなっています。空圧機器部品なども半導体装置に関係するものもあり高水準の受注が継続しています。工作機械は足元やや鈍化傾向はあるものの、依然として受注残高は多く稼働率は高くなっています。自動車に関しては、部品欠品の状況により生産量が増減を繰り返して、不安定な動きになっています。

日本を除く世界各国では金利が上昇しており、不動産市況の悪化、不良債権の増加、景気悪化要因の増加など懸念材料が出てきており、経済成長率が低下してきて製造業にも景気減速の影響が出始めていると思われまます。日本国内では企業物価は大きく上昇してきていますが、消費者物価は海外に比較してまだ高くはなく、コロナ対応が落ち着き個人消費も回復傾向にあり、また円安による外国人旅行者によるインバウンド消費も増えてきています。国内景気には強弱両面の要素が混在しています。このような状況のなか、当社の受注は全体としてやや減少しました。

コレットチャック部門では、部品調達難に左右された自動車部品や電子部品などで量産部品が減少傾向になり、半導体製造装置向けなど高水準を維持した分野もありましたが、総じて国内製造業の設備稼働率は低下して、当社の受注も微減となりました。セグメント利益は、昨年末に実施した従業員向け譲渡制限付株式報酬費用の増加により、通常より減益幅が大きくなりました。

この結果、当セグメントの第1四半期累計期間の売上高は305,749千円（前年同期比5.9%減）、セグメント利益は132,909千円（前年同期比15.2%減）となりました。

切削工具部門では、7月、8月と通常並みに受注があり、9月はやや増加して市販切削工具再研磨と別注切削工具ともに、取引の幅が少しずつ広がったことにより微増となりました。

別注切削工具の製作・再研磨は、様々な形状に対応して高品質・短納期で対応したことで顧客の認知度が向上し、売上高は39,066千円（前年同期比7.3%増）となりました。

市販切削工具の再研磨は、求められる品質を充たし、量の多寡にかかわらず決められた納期を完遂したことで顧客からの信頼が高まり、売上高は97,832千円（前年同期比3.4%増）となりました。

この結果、当セグメントの第1四半期累計期間の売上高は136,898千円（前年同期比4.5%増）、セグメント利益は25,602千円（前年同期比19.7%減）となりました。セグメント利益の減益は、昨年末実施した従業員向け譲渡制限付株式報酬費用の増加によるものです。

自動旋盤用カム部門では、カム式自動旋盤で加工する量産部品は一定量ありましたが、新たなカムの受注は少なく減収・減益となりました。

この結果、当セグメントの第1四半期累計期間の売上高は4,249千円（前年同期比13.1%減）、セグメント利益は1,182千円（前年同期比30.3%減）となりました。

これらの結果、当第1四半期累計期間の売上高は446,897千円（前年同期比3.0%減）、営業利益は87,460千円（前年同期比26.6%減）、経常利益は83,804千円（前年同期比30.7%減）、四半期純利益は57,742千円（前年同期比30.8%減）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

当第1四半期会計期間末における流動資産の残高は、7,300,718千円（前事業年度末は7,719,717千円）となり418,999千円の減少となりました。これは、原材料が4,975千円、仕掛品が1,189千円増加しましたが、現金及び預金が416,776千円、受取手形及び売掛金が6,714千円、製品が1,732千円減少したこと等によるものであります。

また当第1四半期会計期間末における固定資産の残高は、1,704,492千円（前事業年度末は1,759,767千円）となり55,275千円の減少となりました。これは、繰延税金資産が6,366千円増加しましたが、長期前払費用が28,510千円、機械装置及び運搬具が18,593千円、建物及び構築物が8,544千円、投資有価証券が5,257千円減少したこと等によるものであります。

この結果、当第1四半期会計期間末における総資産は、9,005,210千円（前事業年度末は9,479,485千円）となりました。

(負債)

当第1四半期会計期間末における流動負債の残高は、238,752千円（前事業年度末は265,490千円）となり26,738千円の減少となりました。これは、未払金が68,720千円増加しましたが、未払法人税等が79,902千円、役員賞与引当金が8,730千円、その他が5,343千円減少したこと等によるものであります。

また、当第1四半期会計期間末における固定負債の残高は、524,590千円（前事業年度末は525,040千円）となり450千円の減少となりました。これは、退職給付引当金が6,626千円、その他が1,753千円増加しましたが、役員退職慰労引当金が8,830千円減少したことによるものであります。

この結果、当第1四半期会計期間末における負債合計は、763,343千円（前事業年度末は790,531千円）となりました。

(純資産)

当第1四半期会計期間末における純資産の残高は、8,241,867千円（前事業年度末は8,688,953千円）となり447,086千円の減少となりました。これは、利益剰余金が443,411千円、その他有価証券評価差額金が3,675千円減少したことによるものであります。

(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

第2四半期累計期間及び通期の見通しにつきましては、2022年8月10日発表の業績予想どおりとなる見込みであります。

2. 四半期財務諸表及び主な注記

(1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (2022年6月30日)	当第1四半期会計期間 (2022年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	6,965,864	6,549,087
受取手形及び売掛金	386,287	379,573
製品	3,428	1,696
原材料	31,906	36,882
仕掛品	233,739	234,928
前払費用	97,716	97,716
その他	933	992
貸倒引当金	△158	△158
流動資産合計	7,719,717	7,300,718
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	442,625	434,081
機械装置及び運搬具(純額)	496,636	478,042
土地	333,534	333,534
その他(純額)	11,117	10,662
有形固定資産合計	1,283,914	1,256,321
無形固定資産	3,850	3,624
投資その他の資産		
投資有価証券	145,388	140,130
長期前払費用	138,745	110,234
繰延税金資産	187,529	193,896
その他	879	843
貸倒引当金	△540	△559
投資その他の資産合計	472,002	444,546
固定資産合計	1,759,767	1,704,492
資産合計	9,479,485	9,005,210
負債の部		
流動負債		
買掛金	18,589	17,106
未払金	89,866	158,587
未払法人税等	115,450	35,547
役員賞与引当金	10,700	1,970
その他	30,884	25,541
流動負債合計	265,490	238,752
固定負債		
退職給付引当金	376,525	383,151
役員退職慰労引当金	139,540	130,710
その他	8,975	10,729
固定負債合計	525,040	524,590
負債合計	790,531	763,343

(単位：千円)

	前事業年度 (2022年6月30日)	当第1四半期会計期間 (2022年9月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	292,500	292,500
資本剰余金	481,250	481,250
利益剰余金	8,567,962	8,124,551
自己株式	△692,283	△692,283
株主資本合計	8,649,428	8,206,017
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	39,525	35,849
評価・換算差額等合計	39,525	35,849
純資産合計	8,688,953	8,241,867
負債純資産合計	9,479,485	9,005,210

(2) 四半期損益計算書

第1四半期累計期間

(単位：千円)

	前第1四半期累計期間 (自2021年7月1日 至2021年9月30日)	当第1四半期累計期間 (自2022年7月1日 至2022年9月30日)
売上高	460,818	446,897
売上原価	272,414	289,241
売上総利益	188,404	157,655
販売費及び一般管理費	69,217	70,195
営業利益	119,186	87,460
営業外収益		
受取利息	47	48
売電収入	1,099	202
貸倒引当金戻入額	8	—
作業くず売却益	547	364
その他	62	159
営業外収益合計	1,766	774
営業外費用		
株式報酬費用消滅損	—	4,430
営業外費用合計	—	4,430
経常利益	120,952	83,804
特別損失		
固定資産除却損	—	0
特別損失合計	—	0
税引前四半期純利益	120,952	83,804
法人税、住民税及び事業税	38,600	30,846
法人税等調整額	△1,109	△4,784
法人税等合計	37,491	26,062
四半期純利益	83,461	57,742

(3) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(会計方針の変更)

〔「時価の算定に関する会計基準の適用指針」の適用〕

「時価の算定に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第31号 2021年6月17日。以下「時価算定会計基準適用指針」という。)を当第1四半期会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準適用指針第27-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準適用指針が定める新たな会計方針を、将来にわたって適用することとしております。これによる四半期財務諸表に与える影響はありません。

(四半期損益計算書関係)

譲渡制限付株式報酬の付与対象者の退職に伴い、譲渡制限付株式割当契約に基づき割り当てた当社普通株式4,000株の全てを当社が無償取得したことにより、前払費用及び長期前払費用として計上していた、該当事契約期間の未経過分を株式報酬費用消滅損で営業外費用として計上しております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第1四半期累計期間(自 2021年7月1日 至 2021年9月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント				調整額 (注)1	四半期損益 計算書計上額 (注)2
	コレット チャック部門	切削工具部門	自動旋盤用 カム部門	計		
売上高						
外部顧客への売上高	324,907	131,020	4,889	460,818	—	460,818
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—	—
計	324,907	131,020	4,889	460,818	—	460,818
セグメント利益	156,705	31,887	1,697	190,290	△71,104	119,186

(注)1 セグメント利益の調整額は、製造部門共通費△1,886千円と主に報告セグメントに帰属しない販売費及び一般管理費であります。

2 セグメント利益は、四半期損益計算書の営業利益と調整を行っております。

II 当第1四半期累計期間(自 2022年7月1日 至 2022年9月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント				調整額 (注)1	四半期損益 計算書計上額 (注)2
	コレット チャック部門	切削工具部門	自動旋盤用 カム部門	計		
売上高						
外部顧客への売上高	305,749	136,898	4,249	446,897	—	446,897
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—	—
計	305,749	136,898	4,249	446,897	—	446,897
セグメント利益	132,909	25,602	1,182	159,694	△72,233	87,460

(注)1 セグメント利益の調整額は、製造部門共通費△2,038千円と主に報告セグメントに帰属しない販売費及び一般管理費であります。

2 セグメント利益は、四半期損益計算書の営業利益と調整を行っております。

(収益認識関係)

顧客との契約から生じる収益を分解した情報

前第1四半期累計期間(自 2021年7月1日 至 2021年9月30日)

(単位:千円)

	報告セグメント					合計
	コレット チャック部門	切削工具部門			自動旋盤用 カム部門	
		別注切削工具の 製作・再研磨	市販切削工具 の再研磨	小計		
工具製作	324,907	36,411	—	36,411	4,889	366,209
その他	—	—	94,609	94,609	—	94,609
顧客との契約から生じる 収益	324,907	36,411	94,609	131,020	4,889	460,818
その他の収益	—	—	—	—	—	—
外部顧客への売上高	324,907	36,411	94,609	131,020	4,889	460,818

当第1四半期累計期間(自 2022年7月1日 至 2022年9月30日)

(単位:千円)

	報告セグメント					合計
	コレット チャック部門	切削工具部門			自動旋盤用 カム部門	
		別注切削工具の 製作・再研磨	市販切削工具 の再研磨	小計		
工具製作	305,749	39,066	—	39,066	4,249	349,065
その他	—	—	97,832	97,832	—	97,832
顧客との契約から生じる 収益	305,749	39,066	97,832	136,898	4,249	446,897
その他の収益	—	—	—	—	—	—
外部顧客への売上高	305,749	39,066	97,832	136,898	4,249	446,897